

あいちオレンジタウン構想の推進

1 事業概要

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、保健・医療・福祉の専門機関が集積するあいち健康の森とその周辺地域が一体となり、地域づくりと研究開発の両面から認知症対策を推進するとともに、その取組を全県に波及していく。

2 平成30年度の事業内容

(1) 地域づくり推進費

(既存の社会資源の機能強化)

ア 認知症地域医療研修事業

地域の医療、介護の連携体制を構築するため、医療・介護連携の要となる認知症サポート医の活動実態の調査や、地域のネットワークづくりの中核となる医療従事者向け研修を実施する。

イ 認知症介護指導者研修事業

認知症介護指導者の養成研修及びフォローアップ研修を実施する。

ウ 認知症専門職家族支援研修事業

認知症の人の家族介護者の精神的負担を軽減するため、地域の医療・介護専門職を対象に「家族介護者に寄り添う支援方法」を学ぶ研修会を開催する。

エ 若年性認知症総合支援センターの運営

若年性認知症の人や家族を支援していくため若年性認知症コーディネーターを配置し、個別相談、自立支援ネットワーク会議や研修会などを実施する。

(新たな社会資源（企業・大学）の巻き込み)

オ 認知症の人にやさしい企業サポーター養成事業

認知症の人と接する機会の多い職場（小売業、金融機関、公共交通機関）で働く人向けの認知症対応プログラムを開発する。

カ 認知症パートナー宣言推進事業

県とともに「認知症に理解の深いまちづくり」のパートナーとなることを宣言する企業・大学を募り、まちづくりの機運を高めるためのイベントを開催する。

(社会資源の有機的連携)

キ 地域住民の認知症理解促進事業

「認知症カフェ」の設置を推進するため、認知症カフェサミットを開催するとともに、運営マニュアル等を作成する。

ク 認知症に理解の深いまちづくりモデル事業

あいちオレンジタウン構想の取組を早期に全県へ波及するため、先進的なモデル事業を実施する市町村を募り、事業実施する。

(2) 研究開発推進費

国立長寿医療研究センターを中核とした産学官連携による共同研究等の推進

ア 認知症対策研究・支援事業

あいち健康プラザ内に国立長寿医療研究センターと認知症予防の共同研究を行うための「連携ラボ」を設置する。また、国立長寿医療研究センターの専門性の高い医学的助言を得て、市町村の認知症に係る人材育成を支援する。

イ 認知症共同研究推進事業

国立長寿医療研究センターの認知症予防とあいち健康プラザの生活習慣病予防のノウハウを活かし、新たな認知症予防プログラムを開発する。

(3) 推進調査費

あいちオレンジタウン構想推進の中核的施設と位置付ける国立長寿医療研究センターの病床機能強化に必要な病棟の建替計画を後押しするための調査を実施する。

(4) 認知症疾患医療センター費

認知症疾患医療センターにおいて、認知症疾患の鑑別診断、初期対応、急性期対応、専門医療相談、研修会などを実施する。

(5) 推進事務費

あいちオレンジ構想に掲げる取組の推進、進捗管理を行う「あいちオレンジタウン構想推進会議」を開催する。